



東京地区生コンクリート協同組合  
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号  
電話番号 (03) 3271-2181  
URL: https://www.t-namakyo.jp/  
発行責任者 高村尚

## ＝協組の動き＝

(6月)

10日(月) 理事会(No. 1101)  
24日(月) 理事会(No. 1102)

(7月)

8日(月) 理事会(No. 1103)  
22日(月) 理事会(No. 1104)

### コンクリート工学年次大会 2019(札幌)

#### 生コンセミナー

「生産性向上と品質確保  
～未来につなぐ  
生コンクリート～」

日時: 7月10日～11日  
場所: 札幌

### 交差点

#### 死角に子供が 隠れてる

関東宇部コンクリート工業(株)



## 第43回通常総会

### 斎藤理事長再任で2期目スタート

第43回通常総会が5月20日、当協組会議室において開催されました。議長には東京トクヤマコンクリート(株)代表取締役の佐藤敬治氏が選任され議案の審議が行われました。

総会は斎藤理事長の挨拶の後、平成30年度の事業報告並びに決算関係書類について審議され原案通り承認されました(以下 I に詳述)。

続いて、令和元年度の事業計画並びに収支予算やその他の議案が審議され全て承認されました(同じく II)。

また、役員任期満了に伴い、全員が改選され新たに理事・監事に選任されました。

引き続き第1100回の理事会が開催され、代表理事に斎藤昇一氏(上陽レミコン(株)取締役会長)が再任され、2期目がスタートしました(同じく III)。

#### I. 平成30年度事業報告

- 出荷数量は五輪関連工事を始め、都心部の大規模再開発需要に支えられ、前年比103.1%で3,555千 $m^3$ と10年ぶりの水準を達成しました。
- 市況面では、一昨年の12月に値上げした1,000円/ $m^3$ のうち700円/ $m^3$ 程度は受け入れられたと認識しています。
- 納入面においては希望通りの納入が困難な時期もありましたが、安定納入対応に関する小委員会を設置し、種々対策を実施しました。また、中庸熱セメントの需給逼迫については、ゼネコン各社に品種変更のご協力を頂き、セメントメーカー各社からも工場休転時期の見直し・供給サービスステーションの拡大等の対応がなされ、危機をひとまず回避いたしました。
- 人材確保や働き方改革への対応は喫緊の課題であり、業界のイメージを刷新する



#### 佐藤議長(前列)と新執行部

ためキャッチコピーの制定やなまリンちゃんグッズの制作などイメージアップ活動を本格化させました。

#### II. 令和元年度事業計画

- 本年度の出荷は、オリンピック・パラリンピック関連工事は一巡しますが、都心部再開発を中心に底堅く推移する見込みです
- 市況面では、前回値上げ時に未織込みのセメント価格の改定、骨材価格・輸送コスト他も上昇傾向にあり未達分の獲得に総力を結集してまいります。
- 本年度の働き方改革関連法施行に伴う新たなコストアップも想定され、これらに対応するため、新たなワーキングの立上げを行いました。

#### III. 新執行部及び理事・専務理事の交代

【新執行部】 (数字は写真後列左からの順番)

- 理事長 斎藤 昇一 上陽レミコン(株) ③  
副理事長 西森 幸夫 むさしの生コン(株) ④  
松本 正信 東京エスオーシー(株) ②  
田中 義克 関東宇部コンクリート工業(株) ⑤  
水野 達郎 (株)東京菱光コンクリート ①

#### 【理事交代】

- 就任 諸角富美男 城北小野田レミコン(株)  
青木 規悦 神奈川秩父レミコン(株)  
退任 小野 健司 関東コンクリート(株)  
吉田 道夫 神奈川秩父レミコン(株)

#### 【専務理事交代】

- 就任 高村 尚  
退任 吉村 洋



三組合合同懇親会での当協組斎藤理事長のご挨拶は以下のとおり。

本日はお忙しいなか、三組合懇親会にお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃は東京協組の活動に対しご理解ご協力をいただき、あらためまして御礼申し上げます。

東京協組の課題については、正月以来、販売店様には繰り返し同じことを申し上げておりますが、東京協組としてはいまのところこれにつき、元号が変わってもお願いすることは同じでございますので、よろしくお願ひします。

#### ① 適正価格の獲得

一昨年12月に1,000円/ $m^3$ の値上げをお願いし、700円/ $m^3$ 程度は上昇したと理解しております。しかしその後1年以上の間に、輸送費、原材料、更にはあらゆるコストが上昇しており、特に骨材等も厳しい交渉をしているところで、なんとでも残りの300円/ $m^3$ を獲得しなければならぬと思っており、販売店の皆様のご協力を得て実現したいと考えております。

#### ② 安定供給

昨年、特に10月に厳しい状況となり、

協組として色々な対策を打ちなんとかご迷惑をかけずに乗り切れたかなという次第です。現在は少し緩んでいるようですが、秋口にはまた繁忙期を迎えるとゼネコンから聞いておりますので、価格だけでなく供給に力を入れていきたいと思ひます。

#### ③ 予定変更、残コン・戻りコンの削減

安定供給達成のためには、予定の変更・キャンセルの削減、残コン・戻りコンの更なる削減が不可欠と考えております。

昨年、東京協組は10年ぶりに3,500千 $m^3$ を越えて数量がでたこともあるかもしれませんが、今申し上げた削減して頂きたい項目全てが改善されず、むしろ少し増えたのではと憂慮しております。

#### ④ 働き方改革への取り組み

業務の改善・効率化、を提案したいと思っております。ワーキングをいくつか作って、ご提案・ご相談をしていきたいので協組組合員だけでなく、登録販売店、セメントメーカーのお力をお借りして、工業組合・卸組合と一緒に進めていきたいと思ひます。

本日も参集頂きました皆様のご多幸とご活躍を祈念しご挨拶いたします。本日はどうもありがとうございます。

	(出荷数量)		(引合、成約、契残)	
	5月(実績)	6月(想定)	5月(実績)	前年比
	前年比	前年実績比		
大型	207,954 $m^3$ 77.3%	270,000 $m^3$ 79.7%	引合 178,745 $m^3$	321.6%
小型	29,686 $m^3$ 88.4%	30,000 $m^3$ 92.9%	成約 143,045 $m^3$	305.8%
計	237,640 $m^3$ 78.5%	300,000 $m^3$ 81.0%	契残 2,850,627 $m^3$	59.1%

## 第43回通常総会

# 営業委員会・技術委員会報告

### －商流との信頼関係強化－

#### 【営業委員会報告】

西森営業委員長より営業報告がありました。まず、平成30年度の活動報告は以下のとおりです。

- ①昨年度と同じく登録販売店32社と取引基本契約を更新しました。
- ②登録販売店全社から債務保証を差し入れていただいております、平成31年3月末の債権保全率は145.3%でした。
- ③平成30年度の出荷数量は五輪関連施設並びに大手町や渋谷などの複数地区における大規模再開発需要に支えられ3,555千㎡(前年度比103%)と、10年ぶりに3,500千㎡を超えました。
- ④運転手不足に起因した生コン輸送コストアップや骨材などの値上げに伴い、一昨年12月以降の引き合い受付分より

1,000円/㎡の値上げを実施しました。

⑤市況対策に努めた結果、積算資料では平成30年9月号において13,200円/㎡が13,700円/㎡に、建設物価では平成30年10月号において13,200円/㎡が13,500円/㎡に、同じく平成31年1月号において13,800円/㎡に上伸しました。

⑥登録販売店と課題解決のためのベクトル合わせを目的に、各種情報連絡会を通じ意見交換等を実施し、商流との連携強化を図りました。

また、令和元年度の計画については、前年度における取組を継続していくほか原材料費、輸送費及び労務費等のコスト増要因を精査し次回値上げの検討をしてまいります。

#### 【技術委員会報告】

西森技術副委員長より技術報告がありました。まず、平成30年度の活動報告は以下のとおりです。

- ①日本品質保証機構に委託し、平成30年度品質検証チェックシステムを実施しました。
- ②乾燥収縮並びにヤング係数測定試験を実施しました。
- ③苦情・トラブルの再発防止、技術的情報の共有化のため、組合員報告書の提出を促進しました。
- ④コンクリートの管理供試体強度に及ぼす初期養生に関するその2WG(東京工組と共同)活動に取り組み、JCI大会、日本建築学会において実験結果を発表しました。
- ⑤施工者との意思疎通をより一層深め、残コン・戻りコン発生削減に努めます。

また、令和元年度の事業計画については、昨年度の活動内容を更に強化発展させて参ります。

### 工組・協組・卸協 三組合合同懇親会

## 業界のイメージアップ推進

東京地区の工組・協組・卸協の三組合は5月20日、通常総会終了後に都内のホテルで合同懇親会を開催し、約300名の関係者が出席しました。

初めに工組の吉野理事長から挨拶がありました。東京地区の出荷は5つの協同組合の尽力により前年度比105%と堅調です。工組としては本年度も次の3つの重点課題に取り組むこととしています:①東京都の生コン監査会議を軸とした品質の更なる向上、②

セメントメーカー等の支援も踏まえた需要の開拓への取り組み、③特に若手に的を絞った人材確保のための業界のイメージアップ。

卸協組の浅野理事長は以下のとおり挨拶されました。本年は東京地区は需要に恵まれた1年間でしたが、その中で予定変更や残コン・戻りコンの問題は大きなテーマと認識され、また働き方改革についてはそれぞれの会社だけの問題でなく、卸協組が果たすべ



三組合理事長  
(左から、卸協組 浅野理事長、東京協組 斎藤理事長、工組 吉野理事長)

き役割があると認識しております。結びに、毎年三組合の合同懇親会が開催されていますが、これは東京地区の結束の証であると感じており、この信頼感を以て、更なる生コン業界の発展につなげていければと思います。

## わが社の イメージアップ

### 東京トクヤマ コンクリート(株)

生コンと聞いてピンと来る人は世の中にどのくらいいるでしょうか。コンクリートはセメントと同じものと思っている人が殆どではないでしょうか。街を歩けばミキサー車をよく見かけるものの、中身がどんなもので?どんな風に使われているのか?分かっている人は少ないはずです。

生コン業界はいわゆる《3K》であるという先入観でイメージダウンの状況に直面しています。何が出来るのか?非常に難しく考え込んでしまっていますが、出来るところから始めるようにしています。当社の工場敷地は手狭ではありますが、常にきれいに整理、整頓を心懸けて《5S》に努めています。働く従業員自身が明るく振舞い、気持ち良く過ごすことで、好感度アップに繋がたいと思っています。好感度で言いますと、今年に入ってミキサー車のカラーを新車導入から爽やかな(自分ではそう思っています)白地に青でイメージチェンジをしました。建設に従事されている方々や街行く人々が好感を持って頂ければ有難いことです。勿論、その車に乗るドライバーも爽やかなセールスドライバーを目指しています。また、若洲地区のクリーンアップ作戦において周辺美化活動に努め、防災訓練や避難訓練などの地域活動にも参加しています。



このように出来ることから始めていますが、前述の通り、この業界は《3K》のイメージが強く人材確保の難しさに直面しています。働き方改革の取組みが大切になりますが、当社も《3K》を払拭する為に色々と意見交換をしており、例えば、製造作業の機械化、自動化を目指し作業の軽減を図ることや、重要個所などにモニターを設置して集中管理で安全を確保することなどの議論もしています。

いずれは母親が自分の子供に「生コン業界に入れたらいいね」とあこがれを持って言われるぐらいになりたいものです。その為にはこの業界が世の中に貢献する産業であることをアピールし続け魅力のある業界として関わる人達が楽しくなれば、人は集まるのではないのでしょうか。夢ではなく実現に向けて貢献出来るように努めたいと思います。

最後に、当社は生コンの他にインターロッキングブロックの製造をしています。道路や公園などの街並みの舗装にカラフルでお洒落な景観を演出して、快適な街づくりの実現に寄与しています。生コンも快適な街づくりには欠かせないものとして、世の中に浸透させたいものです。